



日本大学工学部校友会

校友会報

第74号

平成23年3月1日

● ごあいさつ	2	● 支部活動報告	16
● 平成22年度第53回通常総会報告		● 校友レポート・がんばり記	21
● 第30回「母校を訪ねる会」を開催	4	● 工学部NEWS・校友会NEWS	22
● 平成22年度「母校を訪ねる会」「同級会」	6	● 寄付者名簿	23
● クラブOB・OG会報告	12	● 通常総会・母校を訪ねる会の案内	24

INDEX

ごあいさつ

日本大学工学部長
出村 克宣



平成23年の早春を迎えられ、校友の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。加えて、学習支援のための奨学金、クラブ活動や北桜祭の支援、就職活動支援など、日頃より、工学部の教育・研究活動に多くのご支援を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。

さて、日本大学本部では、平成26年の創立125周年に向けて、経営戦略委員会並びに教学戦略会議が中心となって、様々な改革に取り組んでおります。工学部は設立以来63周年を迎えており、還暦を迎えるこの60年を見据えたあり様を検討する時期でもあるととらえております。そんな中で一昨年より、情報交換の場として、校友会事務局と工学部との定期的な連絡会議を開催させていただいており、今後とも、校友会と連携して、教育・研究活動に邁進したいと考えております。

ごあいさつ

校友会会长
手塚 公敏



2011年の早春を迎え、校友の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げますと共に、皆様の平素からの温かいご支援に対しまして、厚く御礼申し上げます。

2010年は激動の年だったと思います。夏にはすごい酷暑で、また暮れから本年の初めにかけて大寒波で大雪となり、自然界の異常を感じました。また、人間社会も、終わりの見えないリーマンショック、東シナ海の尖閣列島の問題、北朝鮮の韓国砲撃等、数え上げたらキリがないほど国内外は混沌とし、首相も一に雇用、二に雇用、三に雇用と言えども雇用は伸びず、世の新卒学生にとっては不安な年でした。しかしながら工学部の学生の就職率は大変高いものになっております。これも校友会員の皆様のご協力の賜だと思っております。なお校友会は、ひきつづき学生の就職サポートのため「就

また、昨年3月には、日本大学の校友が約102万7千人に達し、工学部校友は約5万7千人となりました。このような多くの校友と培ってきた工学部の歴史と伝統を今後とも継承し、さらに新しい歴史を刻んでいきたいと考えております。

ご存じのとおり、日本大学の学祖山田顕義は吉田松陰の門下生であり、山田の長女梅子は、会津松平家より、松平容保の三男松平英夫を婿に迎えています。そして、吉田松陰は、郡山にある安積国造神社の宮司家に生まれた朱子学者・安積良斎(あさかごんさい)の門人がありました。そこで、郡山の地に日本大学工学部があるのは何かの縁だと感じているところです。このようなシンクロニシティ(synchronicity)とでもいうべき縁を大切に、教職員一丸となって、工学部の運営にあたっていきたいと考える所存です。そのためにも、校友会とのますますの連携が重要であり、その連携は、工学部で学び、校友となって巣立つ学生にとって、大変力強い支えになると考えております。

最後になりますが、校友の皆様からの変わらぬご指導、ご支援をお願いすると共に、日本大学工学部校友会のますますの発展並びに皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。

職支援特別委員会」を大学と協力して運営しております。今後とも就職についてのご支援をよろしくお願い致します。

また既卒業の校友会員の皆様の為に、理工学部校友会、生産工学部校友会と共同で「日本大学理工系3学部校友会 会員就職支援サイト」を立ち上げました。求人希望企業校友会員の皆様、就職希望校友会員の皆様は、工学部校友会事務局へ、ご一報ください。

これまでも加藤木前会長がお願いして参りましたが、平成14年度から日本大学校友会の組織が変わり、本部校友会の正会員を募集しております。

工学部校友会員の皆様が一人でも多く正会員になっていただきますと、工学部校友会、工学部校友会各支部の運営、また工学部の学生会員への援助等大変助かりますので、はなはだ勝手なお願いですが、ぜひご協力のほどお願い致します。

今後も校友会は大学と協力して、大学及び校友会発展のため、一層努力をして参ります。

最後になりましたが、校友の皆様の益々のご健勝とご発展をご祈念申し上げご挨拶とさせていただきます。

平成22年度第53回通常総会報告

平成22年4月24日(土)、午後2時より東京市ヶ谷の日本大学会館にて日本大学工学部校友会通常総会が開催された。手塚公敏会長(土16)の開会の挨拶で始まり、議長に小山田克己氏(土5)を選出。議事録署名人に田中敏夫氏(建19)、金澤昭治氏(土20)、書記に土岐悦雄氏(建20)、馬場浩身氏(電35)をそれぞれ選出し議事に入った。鈴木守総務委員長(電16)、水上崇財務委員長(建22)より「平成21年度会務報告」「平成21年度一般会計・特別会計収支決算報告」がなされ、それに伴い渡邊信一会計監査(土21)より監査報告がなされた。さらに両委員長より「平成22年度事業計画」および「平成22年度一般会計・特別会計予算」が提案され、質疑応答の結果、賛成多数で承認された。

総会後、本部関係者、工学部関係者そして他学部校友会関係者をお迎えして懇親会が開催された。今回は関東支部の協力もあり、例年以上に校友の参加者が多く、非常に盛大な懇親会となった。

○準会員(学生会員)の総会・懇親会出席

体育会、学術文化サークル連合会、北桜祭実行委員会の代表者数名が参加した。今年度は東京開催であり、校友会役員と準会員の会場への移動には、校友会も資金援助をした工学部バスを利用した。車中での校友と学生との交流は非常に意義深いものとなった。

○校友会功労者の表彰

本会の会務遂行ならびに発展に貢献した功労者9名に表彰状、記念品を贈呈した。

表彰者(敬称略・表彰順)

所属等	氏名	学科・回	表彰理由
本会元役員	曾部忠義	電20	本部校友会会計監査歴任
北海道支部	石井久雄	土7	北海道支部副支部長歴任
関東支部	西川望	土14	関東支部副支部長歴任
東東海支部	石部欽一郎	工6	東東海支部設立に貢献
東海支部	河野叶	土6	東海支部事務局長歴任(故人)
四国支部	濱田利男	機5	四国支部副支部長歴任
九州支部	湯村筑後	建10	九州支部長歴任
アカシア教育研究会	横山賢司	建36	アカシア教育研究会設立に貢献(故人)
校友支援枠	大野均	機49	平成21年度ラグビートップリーグ MVP



平成21年度一般会計収支決算書

収入の部				
科 目	予 算 額 A	決 算 額 B	比較増減(A-B)	付 記
還 付 金 収 入				
本部校友会還付金収入	34,000,000	34,132,000	△ 132,000	
本部校友会正会員交付金	100,000	126,000	△ 26,000	
雑 収 入				
預 金 利 息 収 入	50,000	34,723	15,277	
積 立 金 取 崩 収 入	0	0	0	
当 年 度 収 入 合 計	34,150,000	34,292,723	△ 142,723	
前 年 度 繰 り 越 支 払 資 金	0	0	0	
収 入 の 部 合 計	34,150,000	34,292,723	△ 142,723	

支出の部				
科 目	予 算 額 A	決 算 額 B	比較増減(A-B)	付 記
学 部 へ の 補 助 費				
陸上競技場雷警報機設置補助	1,300,000	1,300,000	0	
学 生 へ の 補 助 費				
学生支援基金特別会計繰入支出金(学内表彰、課外活動支援)	500,000	500,000	0	卒業式表彰他
行 事 関 係 補 助 費				
北 桜 祭 協 賛 金	100,000	100,000	0	
入 学 式 記 念 品	1,400,000	1,232,000	168,000	
卒 楯 式 記 念 品	1,800,000	1,800,000	0	
卒業記念パーティ補助金	300,000	300,000	0	
本部校友会特別振興特別委員会寄付	300,000	300,000	0	旧箱根駅伝協賛寄付
事 業 関 係 支 出 金				
広報活動費(会報発行費)	4,300,000	2,104,101	2,195,899	次年度繰越支払資金へ
広報活動費(ホムペー運営費)	700,000	600,000	100,000	旧広報活動費
校 友 情 報 管 理 費	200,000	180,516	19,484	
母 校 を 訪 る 会	550,000	465,224	84,776	
就 職 支 援 運 営 費	100,000	63,750	36,250	新規
校友支援特別会計繰入支出金	450,000	450,000	0	
冠講座開講特別会計繰入支出金	200,000	200,000	0	
校友会歴史資料収集編纂特別会計繰入支出金	300,000	1,100,000	△ 800,000	
工学部校友会50周年記念誌発刊特別会計繰入支出金	2,100,000	2,250,000	△ 150,000	
工学部教職員連絡協議会	400,000	381,250	18,750	
功 労 者 表 彰	300,000	525,905	△ 225,905	新規
運 営 費				
支 部 活 動 支 援 費	2,200,000	2,200,000	0	
負 担 分 担 費	200,000	200,000	0	工科系校友会分担金
会 費	515,000	500,000	15,000	本部校友会支部会費 本部校友会役員会費他
総 会 会 議 費	500,000	485,060	14,940	
諸 会 会 議 費	220,000	151,755	68,245	
旅 費 交 通 費	3,450,000	3,548,635	△ 98,635	
維 持 管 理 費	50,000	42,000	8,000	
交 際 費	1,200,000	1,465,392	△ 265,392	招待先懇親会祝金、弔電費用等
通 信 連 絡 費	550,000	558,502	△ 8,502	
図 書 印 刷 製 本 費	400,000	339,465	60,535	
備 品 費	200,000	19,950	180,050	
事 務 用 品 費	400,000	261,876	138,124	
賃 借 料	187,740	187,740	0	新規 北・櫻-715,645×12
手 数 料	10,000	14,540	△ 4,540	
支 払 い 手 数 料	40,000	35,070	4,930	
福 利 厚 生 費	150,000	52,060	97,940	
給 与 手 当	6,500,000	6,429,259	70,741	昨年度同予算額
法 定 福 利 費	900,000	846,317	53,683	
職員退職給与積立特別会計繰入支出	100,000	100,000	0	
奨学等基金への繰入支出				
就学支援特別会計繰入支出	500,000	500,000	0	
予 備 費	577,260	0	577,260	
当 年 度 支 出 合 計	34,150,000	31,790,367	2,359,633	
次 年 度 繰 越 支 払 資 金	0	2,186,953	△ 2,186,953	郵便局校友会報発送料金
次 年 度 繰 越 金	0	315,403	△ 315,403	
支 出 の 部 合 計	34,150,000	34,292,723	△ 142,723	

比較増減欄△の科目費用は予備費並びに予算残のある科目より流用した

「母校を訪ねる会」第30回を開催

平成22年10月17日の北桜祭2日目、今年も第30回目となる「母校を訪ねる会」が盛大に開催されました。今年から対象学年が拡大され、卒業後10年目となる48回卒(情報は4回卒)の方々も加わり、8回、18回、28回、38回卒の参加者、総勢207名の参加となりました。対象学年変更と共に、今年は会費を3,000円から1,000円と減額しました。

また例年同様好評を頂いている校友茶会も開催し、表千家 佐藤宗珠先生を席主に、茶席には200名を超える校友が訪れ、お茶を堪能されて行かれました。

懇親会は出村克宣工学部長、手塚公敏工学部校友会長の挨拶に始まり、三ツ井直紀工学部事務局長の乾杯で懇談に入りました。出席者挨拶として土木8回卒、白石五郎氏、建築8回卒、古橋栄吉氏の両氏に、在学当時の想い出を交えたご挨拶を頂きました。また、資料室から発見された幻の工学部歌「久遠の流れ」(作詞:山本将雄

作曲:古関裕而)も披露され、應援團の演舞、名誉教授の福地利夫教授の万歳三唱を経て、盛況の裡に閉会となりました。

参加された方が、「ここへ来たとたんに、皆が元気になった」と、語っていたのが印象的でした。そして「また10年後」と、口々に誓い合い、帰路につかれました。

30周年記念館では昔の授業で使われていた実験道具や、今は無き学舎の写真、当時の風景、北心寮・俊英学寮の資料等を展示した資料室「歴史資料の展示会」を開催していました。こちらにも、多くの校友が在学時代の面影を求めて訪れ、当時の想い出を語り合っていました。

来年の第31回「母校を訪ねる会」も、参加された校友にますます元気になっていただき、各地で日本大学工学部の卒業生がどんどん活躍されることを期待しております。



第30回 母校を訪ねる会

(第8回・昭和34年度卒、第38回・平成元年度卒、第48回・平成11年度卒) 平成22年10月17日



第30回 母校を訪ねる会
(第18回・昭和44年度卒) 平成22年10月17日



第30回 母校を訪ねる会
(第28回・昭和54年度卒) 平成22年10月17日

平成22年度「母校を訪ねる会」「同級会」に参加して

工学部の伝統

機械2回卒 菅野 宗和

今年も多くの懐かしい卒業生に逢った。古い卒業生はすでに会社を定年退職し、第二の人生を歩んでいる人も少なくない。

この中で強く印象に残るのは、やはり一緒に研究実験を行った人達である。

第18回生の機械の二木好文君は、異色の第二の人生を歩んでいる。卒研はアルミニウムの地金に鉄やニッケルなど、融点の高い金属を拡散させる実験をした。これは後述する浅川教授が提唱した高電場を応用して成功した。当時は画期的なものであった。

彼はコニカビジネスマシンの社員時代、1987年ドイツのリューネブルクに工場を立ち上げた。退職後は帰国し現在、相模湖町で陶芸家として活躍している。工房「Atelier Eiche」で壺や茶器を制作しているが、彼ららしい独創的な釉薬を使った作品は、各種の陶芸展で受賞している。今回は全國公募の陶芸財団展において「エジプトの栄光」と銘した壺を六本木の國立美術館に出展し、インテリア部門で大賞を受賞した。私は写真で拝見したが、素人ながらエキゾチックな美しさに魅了された。



筆者は永く大学に勤務していたが、工学部の前身の第二工学部に郷愁を感じている。第二と言う名称は第一の次と云う序列的印象を持つ人も居たが、そうではない。東京大学では戦後、外地の大学や研究機関から引き揚げて来た先生方を、第二工学部(後の生産技術研究所)を新設し受け入れた。日本大学は福島県の要望で旧制日大専門部工科を郡山に移転し、その後の学制改革で第二工学部となつた。しかし教員構成を見ると東大と類似している。

例えば機械工学科の外木有光教授や浅川勇吉教授は旧満州の大連科学院研究所や新京工業大学の教授として御活躍されていた。

また電気工学科の高田実教授は、旧朝鮮の京城帝国大学の設立委員からの教授であった。戦前は東京市の路面電車の騒音を低減された方で、高電圧の放電・音響の権威である。

他学科でも同様な由来、御経歴を有する先生方が少なくない。前述の二木好文君は、サハリンより北のリューネブルク(北緯53度)で機械工場を建設した。色々と御苦労があったと思うが、当時の第二工学部の学生が学問のみならず、新天地を独力で開拓する気概をも教えて頂いた事によるものと思っている。

卒後50年

建築8回卒 古橋 栄吉

母校を訪ねる会に、8名は郡山市内のホテルにクラス会を兼ねて前泊しました。

会食時、各人の近況報告をしてもらいましたが学生時代に話は遡っていってしまいます。下宿・寮生活や級友関係にいたるまで初耳の話を懐かしく聞きながら旧交を温め、明日の母校を訪ねる会に夢を膨らませての一夜でした。

当日、受付を済ませて、一時間余り揃ってキャンパス巡りをしました。入学当時の校舎は戦時中の航空隊が使っていた木造建築でした。3年生の時に鉄筋コンクリート三階建て校舎(元・2号校舎)が建てられ、新鮮な気持ちでの授業でした。その校舎も一昨年、取り壊されており、50年振りに訪れたY君などは、まさに浦島太郎でした。



校友会資料館に足を運ぶと当時のキャンパス模型や写真が整然と展示されており、現キャンパスに対して、当時の校舎配置が徐々に確認できた次第です。

振り返ると、整備された現キャンパス、建物に比べると当時は見すばらしいものでしたが、ソフト面では素晴らしい学園生活でした。故・倉田博先生を主任教授と

して、助手の先生方にいたるまで熱心、親切に家族的雰囲気での授業を受けられました。

さらに、就職指導のご配慮、また卒業後にはあっても技術ほか種々ご指導を賜り、いま在る自分を顧みて感謝しております。

格言に『魚を与えないさい、一日で食べ終わるでしょう。魚の捕り方を教えなさい、一生食べ続けるでしょう』とあります。私たちはこの学園生活を通して魚の捕り方を教わりました。

最後に故人となられた先生、級友には改めてご冥福をお祈りし、また本学園の更なるご発展を心より祈念申し上げ結びといたします。

第7回「あかしや会」の開催

機械8回卒 植田 千芳

「母校を訪ねる会」にお招きを頂き、この機会に毎年の同期会（機械8回卒）「あかしや会」を前日の10月16日に磐梯熱海温泉「四季彩一力」で開催しました。

私も、最早後期高齢者の年齢を迎え、加齢病等々の多発期の領域に入りましたが、元気で達者な方々10名程参加されました。

母校を去って50年、卒業以来初めて逢う同期生もあり青春時代にタイムスリップし、旧交を温めることができました。宴会での自己紹介・近況報告では現役時代での仕事の苦労話や家族・孫等々積もる想い出話で夜更けまで酒を酌み交わし楽しい一夜を過ごしました。次の日は、10時に母校に到着し、50年振りに訪れた大学キャンパスはすっかり立派になり、昔の面影が見当たらない程、様変わりしてました。

私は、昭和31年4月に入学しましたが、その頃は、元兵舎として使用していた板張りの教室でした。現役学生は、現代に相応しく建築された教室・図書館・実験室・体育施設等が整備充実され、恵まれた閑静な教育環境で学べるのが羨ましい限りでした。

私は、4年間北心寮で学生生活を過ごしました。学部資料館を見学した際、池田寮監さんの毛筆で「外出簿」と書いた表紙を見た時、公私共大変お世話になった「池田の親父さん」を想い出し懐かしさが込み上ってきた次第です。

当時寮の食事は、麦飯丼一杯・味噌汁・おかず一品の三品でしたが、何かあの麦飯の香りと味が一生忘れることが出来ません。

同期寮生とも、卒業以来50年振りに逢い寮生活等の昔話を語り合い、北心寮の跡石をバックに記念写真を撮影し再会を約束し別れました。

今後、卒業生の一人として、母校の「文武両道」共に益々の発展を祈念するものです。

最後に「母校を訪ねる会」を企画されました校友会はじめ、学部関係者の皆様に心から感謝とお礼を申し上げます。



母校を訪ねる会に参加して

電気8回卒 小林 清作

校友会事務局より「母校を訪ねる会」の案内状が届き、我々が楽しみにしていた招待はこれで3回目となります。今までの状況は下記の通りです。

第3回・卒業後22年（当時46歳）出席者 3名

第20回・卒業後40年（当時63歳）出席者 16名

第30回・卒業後50年（当時73歳）出席者 13名

最後の「母校を訪ねる会」かもしれませんので、もう少し多くの参加者を期待しておりましたが、欠席の返事を見ると考えさせられました。圧倒的に多いのが、本人の体調不良または配偶者の介護です。

さて参加した学友は、当時とはあまりにも変わったキャンパスにただただ驚いておりました。半世紀以上過ぎているのですから当然かもしれません。

近代的な教室棟・実験棟・研究棟を始め工学部の歴史資料館等々目を見張るばかりです。同時にこの充実した設備で学べる現役の学生諸君が少し羨ましく思えました。

私がこの「母校を訪ねる会」に一番感謝しているのは、時を同じくして学んだ他学科の旧友との再会の場を与えて頂けることです。同じ電気科の仲間とは定期的に旧交を温めておりますが、学生時代親しかった他学科の友人と会える機会はこの場を於いて他には無いと思います。

その後、磐梯熱海温泉に於いて電気科8回卒同期会（11回目）に15名が集まり、学生時代の話に花が咲き楽しい時を過ごしました。翌日は都合により帰宅する方や猪苗代及び吾妻スカイライン観光とそれぞれ別行

動となりました。数人のグループは郡山に残り、昭和31年から4年間青春時代を過ごした郡山の街の変化を昔と比べて、散策して懐かしく将来への夢に溢れていた頃を思い出しました。我々8期生の中で遠方の者は、もう母校を訪れる機会はないかと思います。

最後に「母校を訪ねる会」を企画された、工学部並びに校友会事務局の方々に心からお礼申し上げます。



母校を訪ねる会同級会

建築18回卒 佐藤 政清

平成22年10月16日(土)に第18回卒建築学科による同級会が総勢16名集合し、磐梯熱海温泉「栄楽館」にて開催されました。

同日は、朝からゴルフコンペも須賀川市「宇津峰カントリークラブ」で開き、晴天の下、上手な人も、又そうでない人もクラブを片手に「ワイワイ、ガヤガヤ」言いながら、楽しく過ごしました。

夕方になって開かれた同級会は、欠席とのお手紙を戴いた故津田稔君に対して全員の黙祷で始まり、遠く鹿児島や宮崎から川崎三十四君、柚木崎重俊君も出席し、おおいに盛り上がり、最後には梶田静雄君の音頭でなつかしの日本大学校歌を齊唱しました。『あれから40年…』たち、同級生の面々は60代「耳順」にふさわしい顔となり、各々がそれぞれの人生を歩んで現在に至ったことを物語っていました。そして、同級生の中には当時の下宿探しに郡山の街を歩き回った人もお



り、又、残念ながら今回出席できなかった同級生には「当時の下宿生活の様子」や「タイムスリップ」を感じたとのお葉書を戴きました。

翌日、10月17日(日)は工学部第18回卒業生として平成22年度「母校を訪ねる会」に出席しました。10時の受付をすませ、記念撮影後に午後の懇親会に臨み先生や他学科の下宿生とも再会を喜び、「なごり」を惜しみつつそれぞれ帰路に着きました。

私たちは、定年を迎える年代となり、それぞれが第二の人生の出発点に立っており、今後共、皆様が健康第一に活躍されんことを願いつつ…。

母校を訪ねる会に出席して

機械18回卒 安斎 作一

卒業してから40年、長いようで短い年月だったような気がします。

昭和45年3月に我々は卒業しました。明るく希望に満ちた旅立ちだったと記憶しています。此の度、校友会から「母校を訪ねる会」へのお誘いを頂き、若かりし頃に見た夢に想いを馳せることができました。

我々の学生時代は、日本大学も郡山の地で基礎固めに懸命の頃だったと思います。第二工学部から工学部に改名されましたし、学園紛争も経験しました。その頃の事が鮮明に脳裏によみがえってきます。

部室は、旧日本軍の兵舎だったと記憶しています。それが今回の訪問で大きく変貌を遂げていたことに驚きました。校内は綺麗に整備され、校内を行き交う学生の姿は活気に満ちているように見えました。何よりも驚いたのは女子学生の多さでした。我々の学生時代には女子が4名だったのですから。時代は確実に変わっていますし、40年間という時間の流れを感じました。懐かしい同窓生にも数多く逢うことができました。久しぶりの一言で、あっという間に学生時代に戻れるのですから、学校とは不思議な空間です。

訪ねる会の終了後に、機械工学科第18回卒業生の同級会を、依田先生をお迎えして、飯坂温泉の摺上亭大鳥で楽しく開催することができました。出席人数は16名とちょっと少なめでしたが、遠くは豊田市からも駆けつけてくれました。今回の同級会へのお誘いは、幹事としてお詫びをしなければならない事があります。それは、還暦を過ぎてほとんどの方は、第二の人生を謳歌されているものと勘違いをしたことです。ほとんどの方が現役で仕事をされている現実を見た時、まだ時期的に早かったのかなと思いました。

次回の、同級会にはもっと多くの同級生に逢いたい

と、強く思った次第です。翌18日には、スカイランをはじめとする観光道路を通り、紅葉狩りを楽しみました。空は快晴、紅葉は最高の見頃で楽しい一日を過ごすことができました。出席して頂いた同級生の皆さん本当にありがとうございました。また、都合が悪くて出席出来なかつた皆さん、いつか必ず逢えることを楽しみにしています。最後に、恩師である佐藤光正先生からのコメントで締めくくりたいと思います。先生は、今回都合がつかず出席頂けませんでしたが、以下の一句を寄せて頂きましたので、ご紹介します。

「皆様の長い人生の一隅に、佇むことを許された身の幸せを、感謝せざにはおられません」

先生は、喜寿を迎えて益々お元気でいらっしゃいます。皆さんにお逢い出来ることを楽しみにされています。どうぞ郡山に来られた時は、遠慮しないで私共々お声掛けください。



なつかしの日大郡山に思いをはせて 電気18回卒 渡邊 郁弘

10月16日(土)午後4時頃に40年ぶりに郡山に降り立ち、駅前の賑やかな情景に目を潤ませ、「ここで4年間を過ごしたんだ」と感慨無量になりました。発展する郡山、万歳！！！

5時半からの同級会では宍戸先生をお迎えし、そして旧友との出会い、皆40年の歴史を顔に刻んでおり懐かしさに心打たれました。旧友全員のブリーフスピーチでは40年間の人生の苦労話、仕事の話、最近の健康、学園紛争時の疎開授業、仲間の思い出話等々、日大郡山で共に学び遊び過した日々は間違なく全員が共有しており、和やかなひと時に同じ釜の飯を食った友との語らいは、40年前の青春時代に戻してくれました。そして10年後では長すぎる5年後にまた会おうと約束をして散会しました。幹事さんの粋な計らいで二次会の場でも昔話に花が咲き、美味しいお酒が飲めました。幹事さんに感謝！！！

翌日の17日(日)に懐かしのキャンパスに足を踏み入れ、学園祭の賑わいに昔を思い起こしながら旧友と学び舎をめぐり、「ここに食堂があったなー、昼食を持って阿武隈川の土手に行って、ワイワイガヤガヤお喋りしながら食べたなー」と懐かしい思い出が湧き出てくれました。30周年記念館では工学部の歴史・文化に触れ、昔の実験器具などに古き良き時代を垣間見させて頂き歴史の重みを感じ取りました。

年次別の記念撮影の後、懇親会の場へ移り、昨晩の同僚たちと再び飲み明かす楽しい一時でした。懇親会では久しぶりに聞く応援団による校歌、応援歌に目元が緩み、日大郡山での私の青春の一ページが蘇りました。

最後に「母校を訪ねる会」主催者・校友会殿、同級会を開催してくれた郡山在住の旧友の皆様、本当に有難うございました。ここに厚く御礼を申し上げ筆を置くことにします。感謝！！！



母校を訪ねる会 建築28回卒 鈴木 康人

「母校を訪ねる会」に卒業して初めて参加しました。「光陰矢のごとしと」教わった言葉を改めて思い返しました。就職をして、バブル経済があり、不況があり、私たちが学んだ、建築関係は今一段と厳しい時期になっています。

そのなかで、駅前のホテルで行われた同期会には、32名の仲間が集まり、若井先生も万障を押して参加してくださいました。大学の現状などのお話を頂きました。酒宴の半ばには、各人一人ひとりがステージに上がり、自身の現状などを紹介しました。でも顔を見ても思い出せない人も多くいます。三百数十名の同期生がいて、2クラスに分かれていましたし、学籍番号の近い人の付き合いが多かった為かもしれません。その中でも、女子は、ほぼ全員参加です。2次会に移り、個別に話をすると、九州や、近畿など全国各地からも参加してくれていました。3次会へも参加して、学生のときの

ように時を忘れて飲み明かしました。

翌日、大学へ行くと校舎群の変わりようにとても驚きました。立派な建物が立ち並び、昔お世話になった外山研究室の建物など、何処に在ったかさえ分りません。集合写真を本館前中庭で撮り、50周年記念館「ハットNE」の1階の学生食堂で、立派な料理を頂き、皆さんのお話を聞き、談笑をして校歌を歌い、時を過しました。

余談ではありますが、2次会を途中で抜け出て、昔仲間とよく通っていた麗山の、ばん焼き“ボルガ”へ行ってみました。お店は昔のままで、マスターと思い出話をしました。郡山の人情に触れた楽しいひと時でした。

街並みも、大学も色々と変わっていく中で、阿武隈川、安達太良山、宇津峰山など、自然の景色は昔の儘で癒されます。

今回、蔭山君をはじめ同期会の世話人をしてくれた皆さんに感謝します。10年後の会には、より多くの仲間の顔を見られるように、みんなで声を掛け合っていきましょう。そして、ゴルフコンペもぜひ盛大に行いたいものです。



「母校を訪ねる会」に参加して

電気28回卒 三輪 俊明



卒業後初めて「母校を訪ねる会」に参加して原稿を執筆するに至り、日本大学工学部のホームページを拝見しましたが、研究成果や教育理念など日大生としての意義と役割を痛感しました。卒業後忘れかけていた何かを得たような気がして勇気と希望が湧いてきました。

私が日大に入学したのは30年前の4月です。正門からのメインストリートには桜が満開に咲き新入生の私を歓迎してくれたような気がしています。1回生は「俊英学寮」で寮生活を送りました。今回の「母校を訪ねる会」には旧友と共に参加することができ、とても幸せに思

っています。見知らぬ土地での生活をたくさんの方達と過ごせたことは今の人生にも役立っていると思います。2回生からは下宿生活をしました。下宿先のおばちゃんには大変お世話になり、先輩方々にはいろいろとご指導いただきました。また、同僚と酒を飲み麻雀をし、語り合った日々は懐かしいかぎりです。卒業研究はアンテナ研究室でアンテナの指向性を研究しました。偶然にも長澤先生にお会いすることができ感慨深い思いに浸りました。

日本大学は明治22年(1889年)に創立し、120周年を迎えた伝統大学です。我が工学部も60年の歴史があり多くの諸先輩方々が多種多様な分野でご活躍なされています。「縁」あって日本大学に入学できましたので日本大学の理念でもある「絆」と「自主創造」を心に抱き、日大生として誇りをもって努力していきます。私の好きな四字熟語の1つに「温故知新・故きを温ねて新しきを知る」という言葉があります。まさに伝統と革新でないでしょうか。ところで「絆」と「自主創造」なんとなく電磁波に似ていませんか？目には見えないがとても大切な必要不可欠なもの。「記憶」や「意志」も電磁波の一種なんですか？同一時間における空間を共有できますように、皆様とお会いできる日々を楽しみにしています。



「母校を訪ねる会」に参加して

建築38回卒 岡田 光弘

「母校を訪ねる会」の案内をいただき、卒業してからもう20年も経つかと思いながら、出席しようか迷っていました。しかし、周りにいる先輩方の「出てみると結構楽しいよ」との言葉や、こんなことでもないと北海道から出掛けていく機会もあまりないかなと思い、締切間際にになって急遽出席を決め、卒業以来久しぶりに郡山を訪れました。

郡山の街も学生時代とは結構変わっており、特に大学周辺にあっては、在学当時にはまだ田畠や空き地があったが、今ではアパートが建ち並び、その変わり

様に少し戸惑いながらも、かつて過ごしたアパートや商店などがまだ残っているのを見つけて懐かしさを感じながら周辺を見て回りました。大学も懐かしい校舎に混じって新しい施設もあり、20年の時の長さを感じたところです。

平成2年建築学科卒業生は7名が参加しました。40代半ばに差し掛かっている世代であり、この厳しい社会情勢の中、多忙であることもわかるので仕方がないと思います。

今回集まったメンバーは、在籍した研究室は違ったりしたもの、ともに4年間を過ごした校友であり、和やかな雰囲気で昔を思い出しながら、今の自分たちの状況などを語り合う楽しいひとときを過ごすことが出来ました。このような機会を持てたのも母校を訪ねる会を企画・運営して頂いている大学、校友会の方々のおかげと感謝しています。

また会の前日には、私も在籍していた建築材料研究室のOBや関係者が集まる「あかしや建友会」が開催され、在学中に大変お世話になった福地名誉教授も来られるということで、お会いすることを楽しみにしていました。ただ、出席を決めるのが遅すぎたため、講演会に間に合う飛行機がとれず、残念ながら講演を聞くことは出来ませんでしたが、懇親会に出席させていただきました。福地先生をはじめ、渡澤先生や諸先輩方も久しぶりに会うことができ、近況やそれぞれの立場における建築などを取り巻く状況などの話を聞かせていただきました。



この2日間は、同時に開催されていた北桜祭の華やかさや元気とも相まって、学生時代に戻ったような、短くも本当に楽しい時間でした。

次回は、私ももっと多くの人に声を掛け、より多くの人が参加されることを期待します。

母校を訪ねる会に参加して

電気38回卒 坂間 茂

『母校を訪ねる会』を機会に20年ぶりに、母校を訪ねて来ました。10年ひと昔とよく言いますが、20年はだいぶ昔でちょっとした浦島太郎状態でした。学生時代に学んだ校舎の跡形もなく、きれいな校舎になって周囲の景色を見なければ都心のキャンパスと見違える様です。特に、懇親会が行なわれた学食の変貌は、見事

です。当日は、学食は営業していませんでしたが、食券機のメニューを見ると昔と違い洗練されたメニューになっていたのは、ちょっとした驚きです。私の学生時代は、1000円で確か1050円分の食券を買って、とっても綺麗なお姉さん方に窓口で注文していた記憶がうっすらとあります。

郡山には、前日から乗込み卒研室にも訪問させて頂きました。卒研室のある建物や卒研室は、若干のレイアウトの変更等は、あったものの当時の状態のままでだったので、とても懐かしく感じホッとしました。卒研室訪問の後は、小林先生や当時の卒研のメンバーと郡山駅前で待合せ、久々の小さな同窓会を行い、学生時代の話や現在の近況報告で盛り上がりとても楽しいひと時を過ごしました。特にうれしかったのは、小林先生が私達の事を駅前で再開した時に20年も経つと体型等もだいぶ変化しているにも関わらず名前で呼んで頂いた事です。小林先生ありがとうございました。

今度の『母校を訪ねる会』の対象は、10年後になりますが、また参加させて頂きたいと思っています。今回、同年代の参加者が少なかった事が残念です。次回はもっともっとみんなに会いたいので10年後は皆さんも参加してみませんか？きっと楽しめますよ。



クラブOB・OG会報告

C F F 親睦会

工化13回卒 堀 博信

私ども C F F 親睦会は、会長・中西弘、常任幹事・西尾陸男の両君らが還暦を期にゴルフなどの趣味を介して有志が集まり、その後口コミで、次第に参加者が増え、現在30名の会員がそれぞれの都合に合わせて親睦を重ねております。

今次のキャンパス訪問旅行は、4年ほど前の催行の後に、親睦会に参加された方々が是非に母校を訪ねたいとの希望があり計画したものです。残念ながら仕事や家庭の都合で、当初の参加希望者から幾分減ってしまいましたが、卒後初めての方を中心に実現することが出来ました。

卒後45年、母校が発展を続けることは、私どもにとっても大変喜ばしく、昔の姿を懐かしく偲びながら、すばらしい変容ぶりを目の当たりにいたしました。これからも、時代とともに移り変わる環境と潮流の変化を予測し、適切に対応されて、ますます世の中の役に立つ母校であることを祈念しております。

少子化の進行と経済環境の厳しい折から、多くの学生が集まると良いですね。私どもも応援に努めます。



日本大学工学部建築学科第14回卒業 (アカシヤ会) 卒業45周年同級会

建築14回卒 朝倉 治郎

私達は昭和41年3月の卒業生です。平成生まれの学生達、後輩の皆さんには遠い昔の人という感じでしょう。ご両親というより祖父母と同じ年代です。しかしそまだ現役で頑張っている仲間も半分位居ります。

思えば我々の学生時代は鉄筋コンクリート造の建物が2棟、鉄骨平屋の実験棟が5棟、あとは木造の旧陸軍の

兵舎教室で学びました。食堂も木造の古い平屋で35円のラーメン、45円のカレー、80円のカツ丼(これは最高級)隣の床屋は100円、石炭ストーブはあったように記憶していますが冷房はありません。構内は舗装していないので雨や雪解けの日はゴム長靴が無ければ歩けません。そんな大学でしたが皆、結構楽しく過していました。

就職はオリンピックも終わり、企業も急に採用を控えた為、就職難でしたが、現在よりはずっと良かった。しかし、役所以外は、休みは月一、二日位で働き、昭和40年代、50年代の成長で、日本も先進国の中間入りを果たせたがこれには我々が一翼を担ったと自負しています。特に土木、建築界に措いては社会資本の整備、超高層を始めとする民間建物、特にマンション、公団、公社の4、5階建(エレベータ無し)などの住宅建設は凄まじいものでした。日本経済の高度成長期だったのです(為替レート 1ドル360円が240円→180円→120円と瞬く間に変化しました)。これらの働きすぎで皆あちらこちらにガタがきており、今になってその影響が出てきた者も多々おります。

都内で十数名の仲間が年数回会って、飲んで雑談していますが、誰とも無く同級会をやろうという話が出てきました。大学主宰の卒業50周年が5年先にあることは皆知っていますが、5年先では健康でいられるか分からないと誰もが感じてきたからです。毎年、建築同期の仲間の訃報を耳にする度に寂しく、不安に駆られ、現在の45周年で同期の仲間を集め、なんとしてもやるんだと都内・有楽町で11月18日に行いました。70余名に声を掛け40名が参加してくれました。北は北海道、南は広島と航空機、新幹線を利用しての参加です。参加者は一様に同じ思いで感激に浸り、中には互いに45年振りの者もあり感無量でした。一人ひとり自己紹介をしましたが45年間皆それぞれ色々な道を歩んでき、それが各地の建築分野で日本の発展のために寄与しているし、日本大学工学部建築学科で学んできた事が日本中で役に立っているという事が非常に頼もしく、誇りに思えた次第です。日本大学校歌、エンジニア工歌を高らかに歌い上げ、45周年の記念撮影を終え、5年後に郡山での再会を誓い散会しましたが、よき思い出となりました。まさに我々の歴史を作ったという感じで満足しています。

P.S: 大学の脇を流れる阿武隈川のキラキラ光る川面は、まだ健在だろうか。

5年後にはあの懐かしい阿武隈川の輝きを見られるだろうか。

安達太良山に、ほんとうの空がまだあるのだろうか。



管弦楽部OB・OG会総会

～来年創部50周年に当り、思い出話に花が咲く～

機械13回卒 杉坂 宏欣

第11回管弦楽部OBOG会は、平成22年10月9日(土)、東京有楽町のニュースキヤ橋本店9階「LA STELLA」に18人のメンバーが集り開催された。

千秋会長は挨拶の中で「管弦楽部は、来年創部50年を迎える事になり、この半世紀にわたる歴史の節目として、現在50周年記念行事の発起人グループを中心となり、企画検討されている。記念行事を機会に現役とOB・OGが有意義な時間を共有すると同時に、今後も末永く管弦楽部の活動を継続されるよう望みたい」と述べられた。

懇親会は津川博保さんの司会、OB・OG会初参加の田口彰彦さんの乾杯で始まった。

司会兼インタビュアー津川さんの「近況についてひとことを」の問い合わせには…現役社員奮闘中、読書三昧、海外旅行報告、山岳写真活動、アマチュアオケ活動、楽器のレッスン再開等々、それぞれ前向きに充実した日々を過ごしている様子が伺え頗もしい限りである。

また、50周年の記念行事については、期待するとの意見が続き、より多くの関係者が参加できるような企画にしなければと切に感じた。

有志によるエキジビション演奏は「タンゴ真珠採り(原曲ビゼー)」「カバレリアルスティカーナ間奏曲(マスカーニ)」「弦楽四重奏曲・皇帝(ハイドン)」「小さい秋みつけた」(含全員齊唱)の4曲を好演。今日は聴衆だが、いつか演奏者側に回りたいと感想をもらすメンバーも散見され、今後が楽しみである。

流れ二次会は、総会会場から徒歩5分程の「ROSE

AND CROWN」でほぼ全員参加。談論風発して、音楽談義にも花が咲き名残惜しくも打ち切り散会した。

報告の終わりに、OB・OGの皆さんへ…

年会費2,000円は、郵便局口座名「日本大学工学部管弦楽部OB・OG会」「記号10530」「番号65105371」へ振込んで下さい。また、住所やメールアドレスの変更、ご意見のある方は総務担当・杉坂宏欣宛にご連絡下さい。



吹奏楽部OB・OG会を北桜祭に開催して

OB・OG会事務局 後藤 洋

日本大学工学部吹奏楽部第3回OB・OG会を工学部の学部祭である「北桜祭」に合わせ、平成22年10月16日(土)に開催しました。

現役学生との合同演奏を希望してやまないOB・OGのリクエストに応えていただき、午後3時より本館前にてOB・OG約10名参加させていただきました。演奏するOB・OG、聴く側のOB・OG、自分たちの現役時代を思い出しながら感無量でした。

現役学生さんたち、我々の希望を聞いてくれてありがとうございます！

午後6時30分より「ビューホテル」工学部学部次長の機械科教授の小川 清先生に出席頂き、OB・OG会総会及び懇親会を行いました。

まず、懇親会では小川先生のあいさつを頂き、役員の選出、会計報告、今後の運営・吹奏楽部の援助などを話し合いました。

総会に続いて現役幹部で指揮者の小山君の音頭で乾杯、祝宴となりました。

現役幹部の主将柳沼君、指揮者の小山君も参加いただき、上は60代から20歳の吹奏楽部現役部員が一堂に会し、日大工学部の長い確たる歴史を感じる有意義な会となりました。

また、自己紹介では、昔の自分たちの時代の倶楽部活動を皆面白おかしく話していただき時が過ぎるのを忘れるくらいでした(話が乗りすぎて「巻き」がかなり入りましたが…。

その後は昭和のOB・OG、平成のOB・OGに分かれて2次会に郡山の夜の街に消えていきました…。

今回の開催に当たり、吹奏楽部OB・OGの方でお知らせの案内が届かなかった方がいらっしゃると思いますが、ご容赦の程お願い申し上げます。なお、OB・OG会会員名簿を順次、作成・更新しておりますので、下記にご連絡いただければ次回のOB・OG会にはご案内できると思います。

また、今回のOB会の様子を画像・映像をCD・DVDに収める予定です。希望の方には有料(¥1000)にて配布いたします。



とにかく、楽しく懐かしいあっという間の1日となりました。次回(4年後?)は、さらに一人でも多く参 加して頂けるようなOB・OG会を開催したいと思っております。

最後になりましたが、この度のOB・OG会開催に当たり、北桜祭実行委員会ならびに校友会事務局には大変お世話になりました。心より厚く御礼申し上げます。

「電気12回卒業生」同級会開催報告

電気12回卒 細野 聰

平成22年11月10日～11日、栃木県・塩原温泉にて開催され、14名の方が参加されました。

昨年は猛暑続きで紅葉も遅れ、季節的に丁度紅葉が綺麗な時期となったため(例年は終わっている季節)当 日はドライブを兼ねて紅葉を見ながらの参加者も多くいました。

宴會では、多くの人が過去何回も同級会に参加されている方々なので、その後の状況、家族・友達の近況をお互いに交換していました。

1次会では話が尽きず2次会・3次会と深夜まで話は続きました。



次回は、卒後50年を記念しての「母校を訪ねる会」時、郡山の地で再会しようと言うことになった。

尚、参加者には集合写真、スナップ写真を手渡したが、ブログを作成してインターネットにHPを掲載したので紹介します。

<http://denki122010.blog.so-net.ne.jp/>

現在、校友会のトップ・ページに「検索サイト」をリンクするように交渉中です。出来上りましたら皆がこの検索サイトを利用することができます。少しお待ち下さい。

競技を続けていて

工化28回卒 佐藤 克司

昭和51年4月、当時の工業化学科に入学した私は、高校から始めていた陸上競技をそのまま続け、大学卒業後も社会人として第一線で競技していました。

昨年は、“母校を訪ねる会”に参加させて頂き、陸上部や下宿で苦楽を共にした仲間との再会を果たし、在学当時の顧問でありました伏見士郎先生のご自宅にも伺って昔話や先輩、後輩の動向をお聞きました。

現在も第一線での競技大会へは参加する一方で、10年程前から登録しているマスターズ陸上の“第16回アジアマスターズ陸上競技選手権大会”へ、昨年(平成22年)12月に参加しました。

今大会には17の国々から日本人選手約100名を含め総勢で1,700名ほどが参加していました。

結果として、現地に到着した翌日の円盤投げで7位入賞、その次の日のハンマー投げでは銀メダルを獲得しました。

工学部在学中は、東北学生として大会参加していた

わけですが、4年間に出場したハンマー投げの15試合はすべて表彰台に上がり、特に4年生の時の東北ミニ国体（東北選手権大会）で優勝したことで出場権を得て出場したモスクワ五輪の選考会を兼ねた日本選手権では“海外試合参加も夢ではないのか”と思うところもありましたが、それも叶わず年齢を重ねてきておりました。

工学部を卒業してもここまで競技を続けてきていることが不思議でもあり、楽しくもあり、生涯スポーツとして今後もあまり背伸びせずにコツコツと続けて行きたいと思っておりますが、何よりも“身体が第一”ということが身にしみてきている年齢でもあるため、是非、卒業生の皆さんにも私の経験談を聞いて見て頂き、今後の更なる飛躍の種にして頂ければと思います。

写真は、昨年のアジアマスターズ陸上競技選手権大会の表彰のものと、一昨年、郡山市開成山で開催された東北マスターズ選手権大会の際に応援に駆け付けて頂きました伏見士郎先生と陸上部の同期の西家千尋君との写真です。



「第15回あかしや建友会」開催さる

建築19回卒 柳 啓

平成22年10月16日(土)日本大学工学部情報工学棟1階5521教室において、工学部長／出村克宣先生と名誉教授／福地利夫先生(89歳、静岡県伊東市在住)をお迎えして「第15回あかしや建友会」を開催しました。折しも北桜祭が開催中で、在学生を始め、建築学科教室の先生方にも参加頂きました。また、翌日には「母校を訪ねる会」を控えており遠く鹿児島から第一工業大学工学部長の川崎三十四先生(18回卒)はじめ、北海道旭川市役所の岡田教和氏(33回卒)他の方々が参加くださり総勢25名を数え、盛大に取り行われました。

「あかしや建友会(会長:浦憲親金沢工業大学教授／18回卒)」は、日本大学工学部建築材料研究室(故幸田太一教授が研究室の育ての親)のOB・関係者が集う会として、福地利夫先生の退任を契機に、平成5年(1993年)

に発足いたしました。

本会は、平成6年に第1回を開催し、これまでに14回にわたり開催して参りました。各回毎に校友を中心とした参加者による建築材料はもとより、病院建築・構造設計・設備工事他に及ぶその時々のホットなテーマを取り上げ講演形式により話題提供して参りました。その数は51テーマに及びます。

今年は、下記の5テーマを取り上げお話し・講演をいたしました。

①「次世代環境医療」

15回卒 小野平一(順天堂大学)

②「構造設計に関する最近の話題」

18回卒 園部隆夫(SPC設計)

③「地盤置換工法(コロンブス工法)の概要

—その特徴と実用例について—

25回卒 内山美夫(間一級建築士事務所)

④「組めない鉄筋／打てないコンクリート」

29回卒 立山創一(安藤建設)

⑤「土を原料とする建築材料の特性

—土壁、日干し煉瓦—

18回卒 浦憲親(金沢工業大学)

各題30分程度の予定でしたが中には質問等が多く60分を要する講演があり、関心の深さが伺えました。福地先生を始め聴講者から鋭い質問が寄せられ、参加会員席からも質問に返答する場面もあるなど活況を帯びた講演会でした。

講演会の後、学生・一般の参加者も参加して、学内スカイレストランにて懇親会が開かれました。福地先生の挨拶の後、講演会の続きの質問も飛び出したり、なごやかにそれぞれの近況報告等がなされ、また会場の情報研究棟最上階からは、素晴らしい郡山の夜景も楽しむことができました。

最後に、浦会長の指揮の下に校歌を斉唱し、再会を約して中締めとなりました。



支部活動報告

北海道支部活動報告

建築25回卒 北海道支部長 横関 一伸

本年度支部総会は6月11日(金曜日)本部より手塚会長をお迎えして、北海道支部会員60余名の参加により、総会及び懇親会を行いました。

今回は、役員改選の総会でしたので、会計監査の出村先輩と、山本先輩の退任に伴う役員の変更の承認を経て、集合写真撮影をして、懇親会へと進みました。

懇親会では、出村学部長が郡山での生活や思い出に、昭和30年代、昭和40年代、昭和50年代、そして現在のスライドをお見せ頂き、参加者一同、スライドをみながら郡山の変化、大学の変貌に驚きながらも昔話に華を咲かせ楽しい一時を過ごしました。

リーマンショック以来の北海道の不況がどうしようと元気を出して、これを乗り切り、又、次回の総会での再会を誓い縛を又深める一日となり、手塚会長とともに二次会へと繰り出しました。

23年度は同窓会総会及び懇親会を夏頃に行いたいと思い2月の役員会で相談致します。又、釧路で9月頃に支会懇親会(ミニ同窓会)を予定しそれには北海道支部長ほか役員も出席となっています。尚、北海道支部では北海道にお帰りになった方、又、新卒生の参加を歓迎しています。



関東支部活動報告

土木17回卒 関東支部長 盛武 建二

平成22年度、関東支部の主な事業は次のとおりです。

平成22年4月 工学部校友会総会(東京)

平成22年4月 関東支部総会

平成22年6月 関東支部長野県校友会総会

平成22年7月 関東支部役員会

平成22年9月 日本大学副総長祝賀会(郡山)

平成22年9月 関東支部千葉県校友会役員懇談会

平成22年11月 関東支部栃木県校友会総会

平成22年12月 関東支部役員会

この他、各都県校友会役員は平成22年9月の関東支部千葉県校友会役員懇談会等、各都県で随時、校友活動を行っています。

校友は22年10月日本大学工学部土木工学科学生の現地見学会(霞ヶ関官庁、会計検査院、大成建設の品川シールドトンネル工事)及びOB懇談会、22年11月全国日本大学校友会等へ参加いたしました。これらの事業のうち関東支部長野県校友会総会の状況を報告します。

「平成22年度日本大学工学部校友会関東支部長野県校友会10周年記念総会」が6月19、20日の2日間にわたって実施されるので、この総会に参加するために、盛武は、6月18日20時新宿駅発、スーパーあずさ自由席車輌に乗る。甲府まで満員。23時前に松本駅に到着した。小雨の降っている松本駅周辺には多くの若者が居り、居酒屋の並ぶ小径は、40数年前の郡山アーケードの雰囲気を思い出させる。

6月19日、11時松本駅、長野県校友会事務局長田中さん、村田先生と合流。一路、白馬村記念総会会場へ。長野県下から、校友が多数集まり、記念総会が行われた。私の記念講演では会計検査院の役割、検査事例などを説明した。18時から懇親会。工学部の思い出、現状と話題は尽きない。20時30分を目前に、酒井洋さん(土木31白馬村役場)のリーダーによる日大校歌齊唱(詳細は日本大学工学部校友会ホームページに掲載)。

その後、テレビ中継。ワールドカップ日本対オランダ戦。残念ながら惜敗。

ホテル内の温泉露天風呂に入浴後、熟睡…。



6月20日、白馬村現地視察。参加者は、村田先生(土木12)、姉崎さん(建築13)、山田さん(建築13)、盛武(土木17)、田中さん(土木17、事務局長)、岡村さん(建築22、長

野県施設課長)、酒井洋さんでありました。主な視察は以下の所です。

青葉集落…保存会降旗さんの案内で青葉集落の歴史を理解する。

白馬ジャンプ競技場…私が会計検査院の現役であった平成5年か6年ころ、当時村長の西沢さんからジャンプ競技場建設に関する説明を思い出す。

木流川用水…清流、若葉、特に空気の美味に感激。

大出吊り橋…この吊り橋について、酒井洋さんが会計検査受検時の思い出を語る。

かっぱ亭…地区の女将さんが現地産そばを調理したざるそばが美味。

午後、役場で解散。白馬村観光農政課・酒井洋さん、マイクロバスの手配兼運転手兼詳細な現地案内有り難う御座いました。白馬村に行かれる方は酒井洋さんに連絡すると親切に案内を頂けると思います。また、田中事務局長が写した写真は日本大学工学部校友会ホームページにあります。

関東支部栃木県校友会活動報告

土木36回卒 栃木県校友会事務局 篠崎 淳
さる平成22年11月20日、当校友会本年度総会及び懇親会を開催致しました。

来賓に、福田富一栃木県知事・日本大学校友会栃木県支部長、佐藤勉衆議院議員・当校友会顧問、池澤栃木桜工会会長、手塚工学部校友会会长、盛武関東支部長、又工学部より、土木工学科長林久夫、古河幸雄両教授をお迎えし、会員50数名の出席のもと盛大に行われました。

本年は、役員改選の年に当たり、三柴富男新会長(建築20回卒)が選出されました。



懇親会では、現役の応援団より福田知事、佐藤代議士へエールを送る場面もあり大変盛り上がりいました。

栃木県校友会では、毎年10月頃、土曜日夕方から総会及び懇親会を開催しております。

土木工学科・建築学科に留まらず、全学科に輪を広め出席者を集めています。栃木県に戻ってこられた方、仕

事で転勤されてきた方、新卒者の方、お気軽にご連絡ください。

北陸支部活動報告

建築17回卒 北陸支部長 笠井 隆
校友諸兄には益々ご活躍のことと心よりお慶び申し上げます。

今年度の主要な活動は、7月31日に新潟市内のホテルにて第10回定時総会を開催しました。本部から前会長の加藤木さん、アカシア教育研究会から、湯浅耕三さん(建築14回卒)久保田幸正さん(建築19回卒)のご出席を頂きました。

加藤木さんから工学部校友会設立50周年記念誌の発行のお話を中心に、学内の近況報告を、湯浅さん久保田さんからは、教育会においての校友の活躍のご挨拶を頂きました。

総会終了後は恒例となっている父母会と合同で懇親会を行いました。校歌、応援歌、日大節などに声を張り上げたりと和気藹々の一時を過ごすことが出来ました。



又9月25日には阿賀高原ゴルフ場に於いて懇親ゴルフ大会を開催し、大嶋利明さん(土木22回卒)が初優勝を飾りました。“北陸支部”といつても新潟県の校友がほとんどでしたが今年の総会には富山県の校友が駆けつけてくれました。長年の念願が叶えられて嬉しく思いました。これからも近県の校友が集まる“北陸支部”を目標に努力したいと思います。

何卒今後とも宜しくお願い申し上げ、活動報告と致します。

東海支部活動報告

土木28回卒 東海支部事務局長 近藤 直幸
校友諸兄には、益々ご活躍のことと心よりお慶び申し上げます。

平成22年度東海支部総会を平成22年7月30日に名古

屋駅前のホテルにて、来賓として手塚公敏工学部校友会会长と学校より長林久夫教授(土木工学科)のご出席を頂き、校友が約40名出席していただき開催を致しました。

手塚会長からは、日本大学校友会の現状報告を踏まえ工学部校友会の状況についてのご報告、長林教授からは、工学部の状況等のご報告を頂きました。ご出席の校友の皆様は遠き母校を懐かしく感じられたことと思います。

その後、校友会功労者表彰が執り行われ当東海支部の発足に尽力された河野叶様が功績を認められ表彰の栄誉に輝かれました。しかし、河野先輩は平成21年11月6日に亡くなられており代理人として娘様にご出席いただき受賞していただきました。

改めて河野先輩のご冥福をお祈り申し上げます。



続いて懇親会へと移り各校友同士が時間の過ぎるのも忘れ学生時代の話、現在の状況等の話に花を咲かせ、最後に元応援団の校友先導のもとに校歌等を斎唱して総会を終了しました。

支部活動も年々出席者が減り苦慮しております。

特に若い校友の出席が得られなくどうしたものかと考えて居るのですが、なかなか妙案が浮かばず毎年同じやり方で進んできております。

他大学の校友会の状況を聞いても異口同音「若い者がねえ…」という回答ばかりです。

何処も同じように苦労されているようですが、他支部に何か妙案があれば是非ご指導いただけると幸いです。

また、学校から学生諸君に在学中に「母校愛」も教育していただき卒業させていただけるともう少し集まるのではないかと感じております。

体の血液の色がピンク色になるまでの「母校愛」でなくともよいと思いますが(私はよく怪我をするとピンク入りの血が出ると冗談を言っておりましたが…)、学生の頃から指導していかないと校友会がなくなってしまう可能性があります。よろしくお願ひいたしま

す。

昨年の学部祭のとき卒業30年とのことで「母校を訪ねる会」にご招待いただき校友会本部の皆様には、大変お世話になり楽しい時間を過ごさせていただきましたことをこの場を借りて御礼申し上げます。

東東海支部(静岡アカシア会) 報告

土木28回卒 東東海支部長 大澤 俊幸

平成22年度支部総会は本会発生の地ともいべき西部・浜松市において6月18日(金)手塚会長・村田相談役、学部より渡辺英彦土木工学科教授の御出席をいただき、盛大に開催いたしました。約半世紀もの前、藤原正臣先輩(土木6回・本会名誉顧問)の県庁土木部を中心に結成された“あかしや会”が本支部の源流であります。この伝統のもと、100余名の校友が参集しましたが、今回は特に「前総務大臣・佐藤勉代議士(土木23回)」もかけつけていただき、今日の混迷している政界のお話を聞くことが出来ました。日本大学広しといえども、これだけ多くの校友が参加する校友会支部は工学部のみであると多くの日大出身の県内の校友はいつもおっしゃっております。さらに今回は、工学部父母会静岡支部の岩堀支部長はじめ役員の方々も御出席していただきました。



さらに9月18日には「出村学部長・副総長就任祝い」を兼ねて、父母会・東東海支部・アカシア教育研究会静岡支部の三団体が共催で「工学部・静岡フェア」を開催し、今後三団体が結束して、校友・父母の



交流はもとより在学生の育成・援助、そして優秀な高校生を母校に送ろうの三本柱で、絆を強め活動することを再確認しました。

幸い本年度県内出身の3名の学生が“日本大学特待生”となり、さらに難関の役員採用試験(高校・工業)に2名の合格者(いずれも島田工出身)を出すことが出来、県庁・市役所そして工業高校の主流は日大工学部といわれる程になりました。これも永年にわたる先輩諸氏の御努力のおかげであると思い我々後輩の責任の重さを痛感しております。

四国支部活動報告

建築33回卒 四国支部事務局長 篠内 清二

平成22年度四国支部総会は、猛暑の真っただ中の8月7日(土)に校友会本部より手塚会長をお迎えして、JR高松駅近くのホテル・ニューフロンティアで開催しました。

愛媛県より青木氏(土木21回)と丹下氏(土木35回)、又、高知県からは門田氏(土木30回)が参加し、総勢20名が出席しました。

総会は六車支部長(土木16回)の挨拶で始まり、会計報告他の議事を審議して可決した後、篠田氏(機械8回)の乾杯で懇親会に移りました。その中で、手塚会長より工学部の現況、入学制度や卒業生の就職状況、又、校友会入会についての報告と説明があり、これらの事項については現在、支部として取り組みを検討しています。

会場では昨年と同様に私の仲介で(公)瀬戸フィルハーモニー交響楽団の友情生演奏が流れる中、谷久氏(土木8回)を皮切りに、出席者全員の近況報告等で大いに盛り上りました。

最後は、牧野氏(建築22回)のリードのもと、ピアノの伴奏で母校と校友会の発展を祈念して校歌他を歌い、楽しく終わりました。

又、毎号でご案内している事ですが、四国支部では“会員相互の絆をより太く”の趣旨で「一本会」を毎月第一木曜日の18時30分から、高松三越東側の居酒屋“はんぶん”にて開催しております。

この会も約13年続いており、毎回10名程度の出席です。キーワードは“郡山”ですので、出張等で高松へお越しの際は、気楽にお立ち寄り下さい。

今後の四国支部活動の方針としては、総会の開催地の検討及び地域の校友の交流をより密にする目的で、高知県校友会、香川県校友会に続き、愛媛県校友会と徳島県校友会を設立したいと考えて、愛媛県において現在準備が進んでいます。

次は徳島県の予定ですので、徳島県の校友の皆様、その節はよろしくお願ひ致します。



愛媛県校友会総会



高知県校友会総会

九州支部活動報告

建築28回卒 九州支部長 上村公仁隆

九州支部の活動報告ですが、今年も9月に第30回の九州支部総会が開催されました。今年は後輩の三好君が勤めている福岡の不動産デベロッパー大手の福岡地所グループのホテルを総会で使ってほしいと提案があり、毎月の例会のアカシヤ会で内容の検討をして、開催場所の変更を決めました。今まででは他学部の校友の中華の料理の宴会場でしたが、今回はハイアットリージェンシー福岡であり、会場の雰囲気はかなり良くなりました。参加人数は例年と変わらなかったのですが、会場が変わっただけで人数も多く感じられました。総会が無事に終了し、懇親会に移り、手塚会長の挨拶と工学部の報告をいただきました。懇親会では校友に近況報告を参加者全員にしてもらいました。懇親会の後は福岡の歓楽街の中洲に繰り出し、大いに盛り上りました。最後は博多の豚骨ラーメンで締めました。手塚会長には最後までお付き合いしていただき、お疲れ様でした。毎月の例会のアカシヤ会は必ず出席してくれる校友と時々出席してくれる面々で、最新の情報交換などタイムリーな話題が多い集まりです。

それと、昨年は船の予約が出来なかった柳川の白秋祭の川下りは、今年は早めの予約で参加する事が出来

ました。会員と家族を含めた懇親ができた、会員相互の親密な関係作りになったと思います。



日本大学校友会福岡県支部の活動には、例年工学部校友会九州支部として、総会やその他の行事に参加していますが、県支部総会では記念講演で工学部の校友で清水建設の高井先輩にJR博多駅の工事について講話をしていただきました。高井先輩には前日の福岡桜建会でもJR博多駅建替え工事の現場見学会もしてもらい、2日続けていろいろとお世話をいただきました。

アカシア教育研究会

建築28回卒 新潟支部事務局長 横尾 聰

平成22年度支部総会は新潟県支部総会を兼ねて平成22年8月27日出村工学部長・副総長、そして木村・佐藤相談役とともに本会生みの親ともいるべき加藤木相談役が御多忙の中御出席いただき、開催することができました。さらに、日大OBである荒木新発田南高校校長先生、関川前新発田農業高校校長先生も出席頂き花を添えていただきました。

本会の目的は会員相互の研修・親睦はもちろんありますが、母校に優秀な後輩を多数送ることも大事な目的であるという気持ちを持って日夜活動しております。そのため、出村学部長より直接母校の様子や先生の

お考えをお聞きすることが出来たことは大変有意義なことありました。なおそのためには、教職希望の学生を確実に採用試験に合格させなければなりません。我々も後輩のために微力ながら情報提供始めいろいろなことで協力させていただきたいと思います。かつて、情熱を持って学生の指導に当たっておられた故村田郁子教授が「先輩の皆さんたのみます」と、おっしゃっておられていたと常々お聞きしております。今後、後輩育成のため我々も全面的に御協力をさせていただきたいと思いますので、教職教室挙げて採用試験合格のための御指導をお願い申し上げます。



住所変更について

転居、転職の際は、校友会事務局までご一報下さい。「電話・FAX・ホームページのお問い合わせフォーム」にて承っております。

寄付者御芳名

CFF親睦会 様 建築28回卒同級会 様

上の2団体より寄付を頂きました。

御礼申し上げます。



校友レポート

ホテル華の湯 社長 電気18回卒 菅野 豊

月日のたつのは早いもので前回の母校を訪ねる会から10年たった。日本大学のキャンパスも様変わりし、また自分も随分と変わったなとつくづく感じさせられたのだが、学生時代はグループサウンズの全盛期でバンドを結成し楽しんだし、また大学紛争もありすごい体験をしたが自分は家業を手伝うことで精一杯。毎日食堂で老麺ライスを食べながら家から学校に通ったことを思い出した。

当時大学の勉強は真空管からトランジスタの切替わり時期で最初は戸惑ってしまったが何とかものにできた。日本大学をでてよかったのは現在のインターネット時代に入り最新の近代文明を取り込むのに時間はかかるなかっただし、これに対し少しの抵抗もなかったことだ。学校で学んだことが隨時に活用できることはうれしい限りだ。卒業後家業の旅館にもどりすぐ旅館の社長となり何が何だかわからないままに旅館を改革し



会社を大きくした。団塊の世代としてはあのバブルも体験し、今度はデフレの荒波にもまれている。

今では磐梯熱海温泉でホテル華の湯、萩姫の湯栄楽館、湯の宿樂山と三つの旅館を切り盛りしている。会社内はLANでつながり3旅館の予約状況は一瞬にして把握することができ、またバック動線には「配膳システム」と言う超近代的なシステムを取り入れ、今の時代の旅館の構造変化に対応するシステムを取り入れた。

旅館はデフレ下の中で不況産業として未だに旧態以前のやり方で経営しており何も変わっていない。昔母は自らが朝早く起き遅くまで稼げ、そうすれば皆ついてくるという至上命令で一日も休みなく働き続けた。そんな成果が実ったのかと思う。

もう40年となるがこれからは時間をもっと大事にし、スピードは落すことはできないがゆっくりしたりズムできざみ続け、不易流行の考え方で自分の人生を歩んでいきたい。あと何回母校を訪ねる会に出れるかわからないけど日本大学工学部学舎は自分にとって一生忘れられない思い出になると思う。

若葉マーク

がんばり記 「鉄道の仕事をして」

土木57回卒 小泉 未和

私は、平成21年3月に工学部土木工学科を卒業し、東日本旅客鉄道株式会社に入社しました。

私が所属する大宮土木技術センターは、鉄道土木構造物のメンテナンスを行っており、担当する構造物は、橋りょう、トンネル、土木工作物(盛土、切取等)、駅設備等です。これらの構造物を定期的に検査し、修繕工事を行い適切に維持管理する他に、降雨に対する斜面の防災強化工事や、バリアフリー設備の設置のような駅整備改良工事、自治体等から委託を受けたこ線橋新設工事等を行っています。



現在、私はさいたま市から委託を受けた線路を跨ぐ、こ線道路橋の耐震補強工事を担当しています。鉄道工事の特徴は、線路に近接している特殊な環境で行うものであり、最終列車が走った後の夜間に、架線を停電させて行うことも多く、短時間で列車運行の安全を確保しながら行っています。

工事にあたっては、列車をご利用していただくお客様や、工事に従事する施工会社の方の安全を第一に考えながら、事前調査や施工検討会などを実施し、工事

施工の安全を確保するように努めています。

当社では、安全5ヵ年計画「安全ビジョン2013」を策定し、当社が営む事業全般にわたり、安全文化の創造に向けて努力しています。その中で、「三現主義」を行動基準として定めています。これは、①現地に出向いて状況を知る(現地)。②現物を見て状態を知る(現物)。③関係する人と向き合って状態を知る(現人)。を表しています。また、「自ら考え、自ら行動する」社員の育成を目指として、自ら問題点を見出す人材の育成に努めています。私は、自分の担当する工事のなかで、これらの行動基準を念頭において、日々の業務に取り組んでいます。

まだ、入社2年目であり、職場の上司や先輩から毎日様々なことを教えていただきながら、仕事をしていますが、一日も早く一人前の社員となれるよう、これからも頑張っていきます



耐震補強後の橋脚



耐震補強工事の様子

工学部NEWS

●サークル活動主な成績

所 属	大 会 名	結 果 ・ 備 考
空手道部	福島県糸東会空手道選手権大会	形・準優勝
	日本大学体育大会	準優勝
剣道部	第58回東北学生剣道優勝大会	3位 第58回全日本学生剣道優勝大会出場(初戦敗退)
	第61回東北地区大学体育大会	男子団体3位
硬式野球部	第35回吾妻杯争奪大学野球選手権大会	優勝
	日本大学体育大会	3位
柔道部	第51回全日本理工科学生柔道 優勝大会	3位
	水泳部	春五大戦 総合優勝 男子総合1位、女子総合2位 冬五大戦 総合優勝 男子優勝
バドミントン部	日本大学体育大会	男子団体優勝
ボクシング部	第20回東北地区大学ボクシング秋季選手権大会	ライトフライ級優勝: 阿部貴真(2年土木) バンタム級準優勝: 山本勇太朗(2年土木)
	第8回春季個人選手権大会	2位: 金子 卓矢(3年電気) 東日本大会出場
洋弓部	東北学生アーチェリー王座決定戦	団体2位 個人2位: 金子卓矢(3年電気)
	福島県フィールドアーチェリー選手権大会	個人1位: 金子卓矢(3年電気) 個人2位: 我妻邦太(1年機械)
	第63回福島県総合体育大会	個人3位: 鈴木広樹(2年情報)
	東北学生アーチェリー個人選手権大会	金子卓矢(3年電気)
	第27回東北学生アーチェリードーム選手権大会	1位: 金子卓矢(3年電気) 全国大会出場(2月頃)
陸上競技部	東北学生陸上競技対校選手権大会	男子やり投げ3位
吹奏楽部	福島県吹奏楽コンクール 県大会	銀賞

●学内で企業セミナーを開催

平成24年度卒業の学部生及び修了予定の大学院生を対象に、約450社の企業の参加を得て2月8～10日の3日間、企業セミナーを開催した。

参加学生は約1,000名。工学部内の70号館(教室棟)で行われ、背広姿の学生は真剣に会社の説明を聞いていた。最近就職活動の早期化及び長期化が社会問題となっているが、この時

期の開催は学生にとっても大変ありがたい行事である。

校友会では企業の方へのお茶のサービスを前年度より始めた。セミナー終了後、学内のカフェテラスにて企業の方と教職員間で情報交換会を盛大に実施した。



●学内で英会話教室

工学部就職課では前期50回・後期50回、計100回の英会話教室を学生に市価の約半分の受講料で提供している。講師はネイティブスピーカーで毎日受講することでTOEICの点数も劇的に上昇。今年で12年目になる。工学部はTOEICの点数によって、正課の英語の単位認定を行っている。

●工学部教員定年退職者 (平成22年1月～12月)

機械工学科 渡部 弘一 平成22年3月5日付
依田 満夫 平成22年3月31日付
電気電子工学科 上坂保太郎 平成22年3月31日付
物質化学工学科 加藤 昌弘 平成22年3月31日付
総合教育 木寄 章光 平成22年3月3日付
金田 建夫 平成22年3月31日付

●学生募集/入学試験・手続きに関するお問い合わせは

TEL 024-956-8619 FAX 024-956-8888
E-mail nyushi@ao.ce.nihon-u.ac.jp

校友会NEWS

●出村克宣工学部長日本大学副総長就任祝賀会を開催

平成22年9月11日(土)、郡山のホテルハマツにて「出村克宣工学部長 日本大学副総長就任祝賀会」を開催しました。

日本大学関係者、郡山市関係者、他学部長、他学部校友会長、本部校友会福島県支部関係者、工学部関係者そして出村克宣先生の卒業研究室OB・OGといった方々をお招きし、総勢で240名ほどのご参加をいただきました。

手塚公敏工学部校友会長から主催者挨拶が述べられ、続いて田中英壽日本大学理事長・校友会長、酒井健夫日本大学総長、原正夫郡山市長、熊谷和年郡山市議会議長、丹治一郎郡山商工会議所会頭にそれぞれご祝辞を戴きました。

出村ご夫妻への記念品、花束の贈呈が行われ、それを受けた出村克宣副総長・工学部長より謝辞が述べされました。その後、前工学部長である小野沢元久日本大学理事長代理・代行者による乾杯で祝宴に入りました。

祝宴も終盤にさしかかり、工学部應援團による校歌齊唱、エールが贈られ、また急遽、上田浩司生産工学部副会長による万



歳三唱も行われました。そして森栄一日本大学校友会福島県支部長による閉会の辞により、成功裡の内、閉会致しました。

ご出席いただきました皆様、またご支援頂きました皆様ありがとうございました。

●日本大学工学部校友会設立50周年記念誌刊行

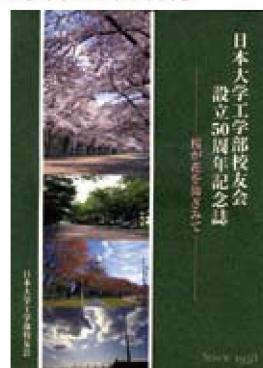
工学部校友会設立50周年を迎えて、記念誌の編集に着手し作業を進めてまいりましたが、お陰様をもつて、校友会の50周年記念誌が完成しました。

【編集の範囲】

地元福島県や郡山市が昭和21年、戦後の地域活性化の為、地元有力者が日大の誘致に奔走したことや、旧海軍飛行場建設(工学部校地は元海軍飛行場跡地)の経緯と、校友会の誕生のいきさつ、50年間の活動の記録、又多くの校友から思い出の回顧録や、学生寮(北心寮・俊英学寮)の沿革や出来事、歴代校友会長と学生代表(体育会、学文連、未加盟団体、北桜祭実行委員会)座談会の記録などと、付録として多くのカラー写真や学園にまつわる出来事や資料をふんだんに盛り込んだA4版200ページの記念誌です。

価格は1冊1,500円(送料込み)です。申込みは「はがき・FAX・ホームページ」にて受付ております。

「お名前、ご住所、必要冊数」をご記入の上お申し込み下さい。



●就職支援サイトがスタート

校友への再就職支援体制が、工科系三学部（理工学部・生産工学部・工学部）校友会との共同でスタートしました。

企業の皆様は是非とも求人情報をこの就職支援サイトに掲載して下さいますよう、お願ひ致します。また求職中の工学部校友会員の皆様は定期的にこの就職支援サイトをチェックして、希望する就職先を見つけていただければ幸いです。

利用方法は求人・求職ともに、就職支援サイトのトップ画面にある「新規登録」にてお手続きをいただき「ID・パスワード」をご取得下さい。尚、ご登録の条件は「求人は校友のいる企業、求職は校友の方」に限らせていただきます。また、情報提供のみで仲介や斡旋はしておりません（職安法により）。ぜひご活用下さい。

詳しくは下記にアクセスを↓

<http://shushoku-koyukai-cst-nu.org/>



●体育会旗を新調

この度体育会学生から、体育会旗の新調の要望があり、校友会で新しい体育会旗を作成しました。

そして、6月5日に開催された東北インターラッジの体育会壮行会にて、鈴木守副会長から工学部体育会第42代常任役員会委員長の齋宮潤さんに体育会旗の贈呈が行われました。



●新年度より導入される就職活動支援事業への援助

新年度から就職活動への取り組み方を徹底的に特訓し、実践模擬面接や働くことの意義、履歴書・エントリーシートの書き方を個人指導する合宿が導入されます。そこで学生の参加費の一部を校友会で援助することになりました。

●学生の就職

支援適性診断テスト(R-CAP)への検定料援助

就職活動において自分を知ることが最も大切であることから、校友会は適性診断テスト(R-CAP)の検定料の一部を負担しています。

平成22年5月27日、校友会の鈴木守副会長から出村克宣工学部長に目録の授与を行いました。



●北桜祭メインステージ設置の援助

北桜祭実行委員会の学生から北桜祭メインステージ設置の援助要望があり、この度校友会でその援助を行いました。



●校友会紹介コーナーの設置

校友会活動の新たな試みとして北桜祭の模擬店に「校友会紹介コーナー」を設置し、校友へのアンケートや学生、一般の来場者への校友会紹介資料の配付などを行いました。

店内には懇談スペースを設けて、校友の皆様にお立ち寄りいただきました。

また、模擬店の横に設置した校友会員在住地分布図や学生服を模した写真用パネルは大変好評で、校友だけでなく一般のお客様にも楽しんでいただけました。是非お立ち寄り下さい。



●工学部校友会賞に3名選ばれる

岡田雄慈（物質・4） 体育会第41代委員長

早川 俊（土木・4） 第59回北桜祭実行委員長

高橋成美（建築・4） 善行賞

以上の3名は卒業記念パーティーで表彰されます。

日本大学工学部校友会員通信費寄付者ご芳名（敬称略・平成22年2月10日～平成23年2月9日）

●57回卒 土木斎 藤優輝 機田喬之 平野耕平 平野匡祐 建築板垣鉄哉 星ルミ子 機械上野剛 富永幸宏	山崎聰典 滝田遼一 電気電子熊倉亮 物質化学傳田智弘 荒川佳保里 情報狩野靖 平林薰	●58回卒 土木秋山侑司 尾形恵弥 小川哲平 小川拡 菅谷祐輔 須田裕也 石坂幸大 小森達郎	増子翔也 加藤智央 酒寄良太 建策石原健 海老原亘 多喜翔一 田切祐輔 中里成彬 原田亘	藤田香里 大和夢 渡部武 熊井直哲 岡部太郎 機械齋藤雄太 立谷真 平結城 中谷悠紀 矢田良太	吉住朋紘 若林裕泰 大越基史 櫻山真一 鈴木恵一 木伏祐介 佐々木淑美 鈴木宏和 渡邊辰也 吉田慎也	物質化学 電気電子 大越基史 櫻山真一 鈴木恵一 木伏祐介 佐々木淑美 鈴木宏和 田中裕輔 寺山直樹 渡邊昌浩 吉田慎也	内俊文 小熊一裕 小田島潤 川畠達郎 木伏祐介 佐々木淑美 鈴木宏和 田中裕輔 寺山直樹 渡邊昌浩 吉田慎也	宮本茂憲 青木柔徳 池田恭平 田中裕輔 寺山直樹 渡邊昌浩	情報 池田恭平 寺山直樹 渡邊昌浩
---	--	--	--	--	---	---	--	--	----------------------------

日本大学工学部校友会員各位

平成23年3月1日
校友会会长 手塚 公敏

平成23年度 通常総会通知

本会会則第14条により、日本大学工学部校友会平成23年度通常総会を下記の通り開催いたします。皆様には年度始めにあたりご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、多数ご出席くださいますよう、ご通知申し上げます。

記

1. 日 時／平成23年4月23日（土）13時より
2. 場 所／日本大学工学部50周年記念館
3. 議 題／
 - (1) 平成22年度会務報告および決算報告
 - (2) 平成23年度事業計画および予算審議
 - (3) 役員の改選
 - (4) その他
4. 懇親会／総会終了後、大学関係者を迎えて懇親会を開催

第31回 母校を訪ねる会

日 時／平成23年10月23日(日)

場 所／日本大学工学部50周年記念館
(ハットNE)を予定

対 象／第9回卒業生（昭和36年3月卒業）
第19回卒業生（昭和46年3月卒業）
第29回卒業生（昭和56年3月卒業）
第39回卒業生（平成3年3月卒業）
第49回卒業生（平成13年3月卒業）

今回は左記の卒業生が母校訪問の主たる対象となります。対象年度に関わらず、ご来校ください。大きく発展・成長した母校をご覧いただき、恩師や旧友との再会に懐かしい一時をお過ごしください。この日は第61回北桜祭開催中です。

なお、クラス会を予定されている幹事の方は校友会にご一報頂ければ幸いです。

卒業後50年以上の校友全員も招待対象としています。どうぞ御来校下さい。

校友会報 第74号



発 行 者 日本大学工学部校友会
福島県郡山市田村町徳定字中河原1
郵便番号 963-1165
電話番号 024-944-1327
FAX番号 024-944-1327
E-mail : info@kouyu.ce.nihon-u.ac.jp
URL : http://www.nichidai-ce-koyukai.com

発行部数 49,000部
発行日 平成23年3月1日
発行責任者 校友会会长 手塚 公敏
編集責任者 編集委員長 長澤 幸二